

看護学科シラバス

2025 3年生

仙台赤門短期大学



目 次

基礎分野

看護英語.....	5
応用ゼミ	6

専門基礎分野

臨床診断・臨床薬理学	7
------------------	---

専門分野

看護管理学	8
災害看護.....	9

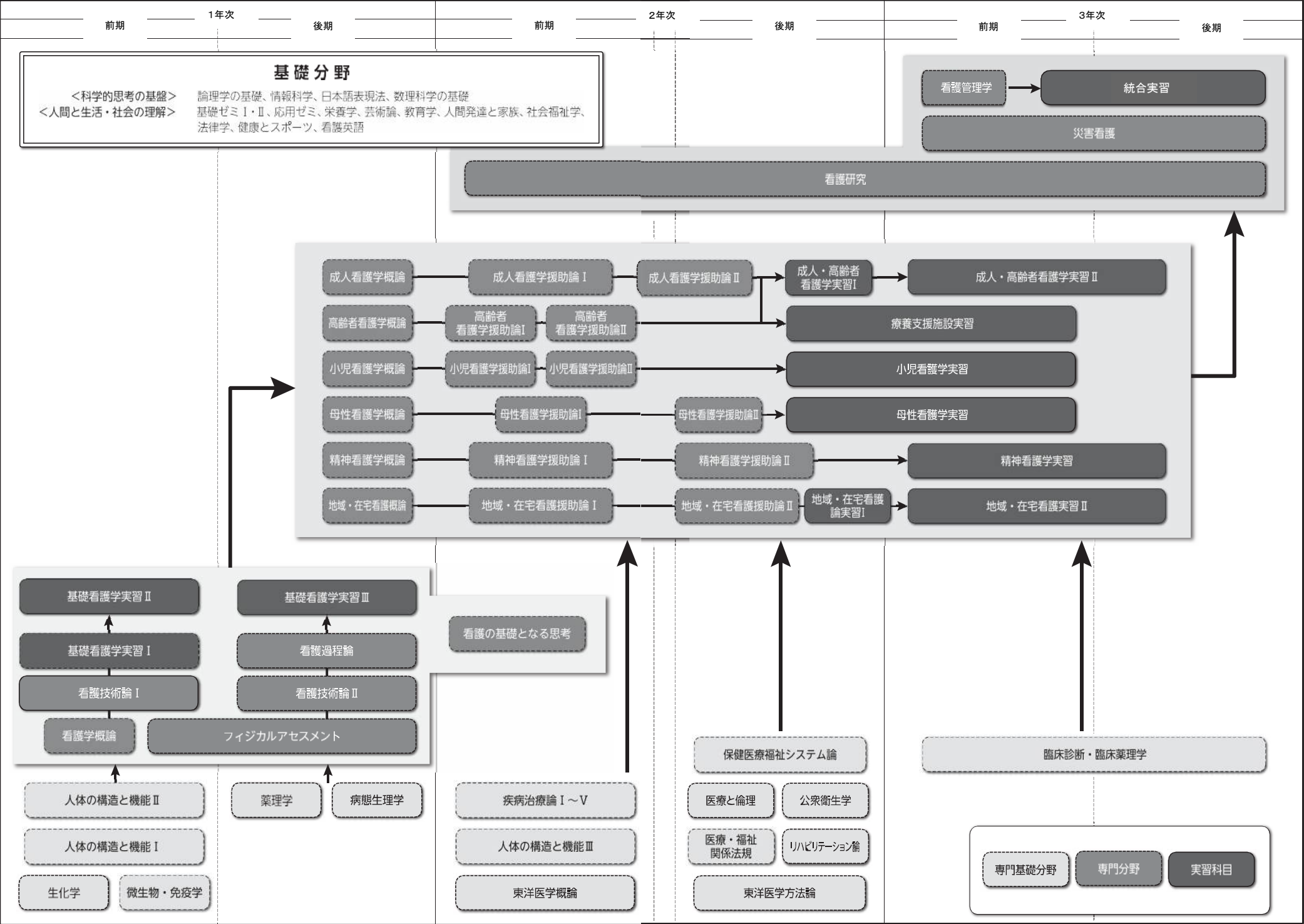
(臨地実習)

地域・在宅看護実習Ⅱ	10
成人・高齢者看護学実習Ⅱ.....	12
精神看護学実習.....	14
統合実習	16

※ 巻末... 専任教員・オフィスアワー

授業科目及び単位数

		第1年次				第2年次				第3年次			
授業科目		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
基礎分野	科学的思考の基盤	数理学の基礎	1	論理学の基礎	1								
		情報科学	1										
		日本語表現法	1										
	人間の生活・社会の理解	基礎ゼミⅠ			1	基礎ゼミⅡ			1	応用ゼミ			1
		人間発達と家族	1			芸術論(選択)	1			看護英語			1
		社会福祉学	1			法律学(選択)							
		栄養学	1			教育学	1						
				健康とスポーツ	1								
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	2			人体の構造と機能Ⅲ	1						
		人体の構造と機能Ⅱ	2										
	疾病の成り立ちと回復の促進	生化学	1	薬理学	1	疾病治療論Ⅰ	1			臨床診断・臨床薬理学			1
		微生物・免疫学	1	病態生理学	1	疾病治療論Ⅱ	1						
						疾病治療論Ⅲ	1						
						疾病治療論Ⅳ	1						
						疾病治療論Ⅴ	1						
								リハビリテーション論	1				
	健康支援と社会保障制度					東洋医学概論	1	東洋医学方法論	1				
								公衆衛生学	1				
								保健医療福祉システム論	1				
								医療と倫理	1				
								医療・福祉関係法規	1				
専門分野	基礎看護学	看護学概論	2	看護過程論	2	看護の基礎となる思考	1						
		看護技術論Ⅰ	2	看護技術論Ⅱ	2								
		フィジカルアセスメント			2								
	地域・在宅看護			地域・在宅看護概論	2	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2	地域・在宅看護援助論Ⅱ	2				
	成人看護学			成人看護学概論	2	成人看護学援助論Ⅰ	2						
						成人看護学援助論Ⅱ			2				
	高齢者看護学			高齢者看護学概論	1	高齢者看護学援助論Ⅰ	1						
						高齢者看護学援助論Ⅱ	2						
	小児看護学			小児看護学概論	1	小児看護学援助論Ⅰ	1						
						小児看護学援助論Ⅱ	2						
	母性看護学			母性看護学概論	1	母性看護学援助論Ⅰ	1	母性看護学援助論Ⅱ	2				
	精神看護学			精神看護学概論	1	精神看護学援助論Ⅰ	2	精神看護学援助論Ⅱ	1				
	看護の統合と実践									看護管理学	1		
						看護研究							2
										災害看護			1
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	基礎看護学実習Ⅲ	2			地域・在宅看護実習Ⅰ	1	地域・在宅看護実習Ⅱ			2
		基礎看護学実習Ⅱ	1					成人・高齢者看護学実習Ⅰ	2	成人・高齢者看護学実習Ⅱ			3
								療養支援施設実習			2		
								小児看護学実習			2		
								母性看護学実習			2		
										精神看護学実習			2
										統合実習			3



科目の位置付け ナンバリングについて

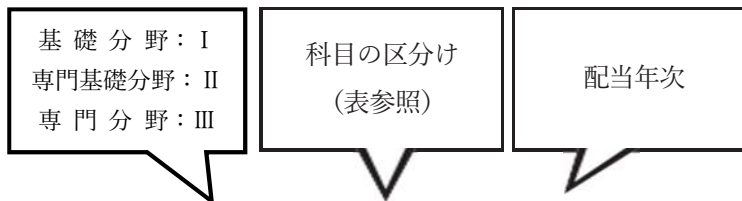
教育の質に係る客観的指標として、文部科学省より

○卒業認定・学位授与の方針と、それぞれの授業科目の関連

○授業科目の教育課程内の位置付けや水準を表す数字や記号（ナンバリング含む）をシラバスに記載することが求められています。

各科目のナンバリングの見方については下記を参照してください。

（例） 1 年生「数理科学の基礎」： I - 1 - 1 - 1 , 4



I - 1 - 1 - 1 , 4

学修成果（到達目標）

※複数当てはまる場合、すべて記述

1. 看護に必要な基礎的知識・技術を対象に合わせて実践できる
2. 看護の対象者の生命・尊厳・人権を尊重した人間関係を構築できる
3. 看護師の独自性を発揮し、他職種と連携・協働できる
4. 専門職業人として、自己実現に向けて継続して学習する基盤がもてる
5. 地域社会の保険・医療・福祉の状況を把握し、その質の向上を目指すことができる

2025年度科目一覧

分野	授業科目		配当 年次	学修 成果	位置付け記号
基礎分野 Ⅰ	科学的思考の基盤 1	数理科学の基礎	1	1,4	I－1－1－1,4
		情報科学	1	1,4	I－1－1－1,4
		日本語表現法	1	1,4	I－1－1－1,4
		論理学の基礎	1	1,4	I－1－1－1,4
	人間の生活・社会の理解 2	基礎ゼミⅠ	1	1,2,3,4,5	I－2－1－1,2,3,4,5
		人間発達と家族	1	1,2,4	I－2－1－1,2,4
		社会福祉学	1	1,4	I－2－1－1,4
		栄養学	1	1,4	I－2－1－1,4
		健康とスポーツ	1	1,4	I－2－1－1,4
		基礎ゼミⅡ	2	2,3,4	I－2－2－2,3,4
		芸術論（選択）	2	2,4	I－2－2－2,4
		法律学（選択）	2	2,4	I－2－2－2,4
		教育学	2	2,4	I－2－2－2,4
		応用ゼミ	3	2,3,4,5	I－2－3－2,3,4,5
		看護英語	3	1,4	I－2－3－1,4
専門基礎分野 Ⅱ	人体の構造と機能 1	人体の構造と機能Ⅰ	1	1,4	Ⅱ－1－1－1,4
		人体の構造と機能Ⅱ	1	1,4	Ⅱ－1－1－1,4
		人体の構造と機能Ⅲ	2	1,4	Ⅱ－1－2－1,4
	疾病の成り立ちと回復の促進 2	生化学	1	1,4	Ⅱ－2－1－1,4
		微生物・免疫学	1	1,4	Ⅱ－2－1－1,4
		薬理学	1	1,4	Ⅱ－2－1－1,4
		病態生理学	1	1,4	Ⅱ－2－1－1,4
		疾病治療論Ⅰ	2	1,4	Ⅱ－2－2－1,4
		疾病治療論Ⅱ	2	1,4	Ⅱ－2－2－1,4
		疾病治療論Ⅲ	2	1,4	Ⅱ－2－2－1,4
		疾病治療論Ⅳ	2	1,4	Ⅱ－2－2－1,4
		疾病治療論Ⅴ	2	1,4	Ⅱ－2－2－1,4
		リハビリテーション論	2	1,4	Ⅱ－2－2－1,4
		臨床診断・臨床薬理学	3	1,4	Ⅱ－2－3－1,4
	健康支援と社会保障制度 3	東洋医学概論	2	1,4	Ⅱ－3－2－1,4
		東洋医学方法論	2	1,4	Ⅱ－3－2－1,4
		公衆衛生学	2	1,4,5	Ⅱ－3－2－1,4,5
		保健医療福祉システム論	2	1,4	Ⅱ－3－2－1,4
		医療と倫理	2	1,2,4	Ⅱ－3－2－1,2,4
		医療・福祉関係法規	2	1,4	Ⅱ－3－2－1,4
専門分野 Ⅲ	基礎看護学 1	看護学概論	1	1,2,3,4,5	Ⅲ－1－1－1,2,3,4,5
		看護技術論Ⅰ	1	1,2,3,4	Ⅲ－1－1－1,2,3,4
		フィジカルアセスメント	1	1,2,3,4	Ⅲ－1－1－1,2,3,4
		看護過程論	1	1,2,3,4	Ⅲ－1－1－1,2,3,4
		看護技術論Ⅱ	1	1,2,3,4	Ⅲ－1－1－1,2,3,4
		看護の基礎となる思考	2	1,2,4	Ⅲ－1－2－1,2,4
	地域・在宅看護 2	地域・在宅看護概論	2	1,4,5	Ⅲ－2－1－1,4,5
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－2－2－1,2,3,4,5
		地域・在宅看護援助論Ⅱ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－2－2－1,2,3,4,5
	成人看護学 3	成人看護学概論	1	1,4,5	Ⅲ－3－1－1,4,5
		成人看護学援助論Ⅰ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－3－2－1,2,3,4,5
		成人看護学援助論Ⅱ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－3－2－1,2,3,4,5
	高齢者看護学 4	高齢者看護学概論	1	1,2,3,4,5	Ⅲ－4－1－1,2,3,4,5
		高齢者看護学援助論Ⅰ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－4－2－1,2,3,4,5
		高齢者看護学援助論Ⅱ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－4－2－1,2,3,4,5
	小児看護学 5	小児看護学概論	1	2,4,5	Ⅲ－5－1－2,4,5
		小児看護学援助論Ⅰ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－5－2－1,2,3,4,5
		小児看護学援助論Ⅱ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－5－2－1,2,3,4,5
	母性看護学 6	母性看護学概論	1	1,2,3,4,5	Ⅲ－6－1－1,2,3,4,5
		母性看護学援助論Ⅰ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－6－2－1,2,3,4,5
		母性看護学援助論Ⅱ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－6－2－1,2,3,4,5
	精神看護学 7	精神看護学概論	1	1,2,3,4,5	Ⅲ－7－1－1,2,3,4,5
		精神看護学援助論Ⅰ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－7－2－1,2,3,4,5
		精神看護学援助論Ⅱ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－7－2－1,2,3,4,5
	看護の統合と実践 8	看護研究	2・3	4,5	Ⅲ－8－2・3－4,5
		看護管理学	3	2,3,4	Ⅲ－8－3－2,3,4
		災害看護	3	1,2,3,4	Ⅲ－8－3－1,2,3,4
	臨地実習 9	基礎看護学実習Ⅰ	1	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－1－1,2,3,4,5
		基礎看護学実習Ⅱ	1	1,2,3,4	Ⅲ－9－1－1,2,3,4
		基礎看護学実習Ⅲ	1	1,2,3,4	Ⅲ－9－1－1,2,3,4
		地域・在宅看護実習Ⅰ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－2－1,2,3,4,5
		成人・高齢者看護学実習Ⅰ	2	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－2－1,2,3,4,5
		療養支援施設実習	2・3	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－2・3－1,2,3,4,5
		小児看護学実習	2・3	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－2・3－1,2,3,4,5
		母性看護学実習	2・3	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－2・3－1,2,3,4,5
		地域・在宅看護実習Ⅱ	3	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－3－1,2,3,4,5
		成人・高齢者看護学実習Ⅱ	3	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－3－1,2,3,4,5
		精神看護学実習	3	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－3－1,2,3,4,5
		統合実習	3	1,2,3,4,5	Ⅲ－9－3－1,2,3,4,5

授 業 科 目 名	看護英語	科目の位置付け	I－2－3－1,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	3 年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	笹野 公伸、小野 八千代、平尾 由美子、安倍 藤子、森岡 薫、佐藤 喜根子、井上 由紀子、佐藤 浩一郎（全員実務経験あり）		
授業の概要・目的	看護学は歴史的には比較的、新しい学問である。起源は19世紀のナイチンゲールにあるにしても、学問としては20世紀に米国で整備・確立されたものであり、我が国の看護学教育も、米国の圧倒的な影響下に発展してきた。したがって、看護学科で教授される内容の相当部分が、外来語のカタカナ表記を用いてなされている。学生は1・2年次において、（実習を除けば）看護学のほぼ全領域を既に学んでいるので、3年次の段階で改めて、看護学で使用される外来語の中で最重要と思われる術語、および略記を取り上げ、その看護学上の概念を復習することにより、看護学への理解を深める。		
授業のキーワード	英語、カタカナ表記、略記、看護学、概念		
授業の到達目標	カタカナ表記される、重要な看護術語の意味・概念を、説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	基礎看護学で使用されるカタカナ（英語）術語	小野
	2	地域・在宅看護論で使用されるカタカナ（英語）術語	平尾
	3	成人看護学で使用されるカタカナ（英語）術語	安倍
	4	高齢者看護学で使用されるカタカナ（英語）術語	森岡
	5	母性看護学で使用されるカタカナ（英語）術語	佐藤（喜）
	6	小児看護学で使用されるカタカナ（英語）術語	井上
	7	精神看護学で使用されるカタカナ（英語）術語	佐藤（浩）
	8	外来・病棟で使用される英語	笹野
教 科 書	なし		
参考文献 その他資料	適宜、プリントを配布する。		
成績評価方法	定期試験による（100％）		
履 修 条 件	特になし		
備 考	1コマにつき合計4時間程度の予習・復習をすること。		

授 業 科 目 名	応用ゼミ		科目の位置付け	I－2－3－2,3,4,5
単 位 数	1 単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	3 年次 通年		必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義			
担 当 教 員	井上 由紀子、金野 明子、安倍 藤子、青野 都、坂本 智恵子、島倉 蓉子、越川 暢恵 キャリア支援委員会委員長、国家試験対策委員会委員長（全員実務経験あり）			
授業の概要・目的	看護教育集大成として自己を振り返ることができ、「看護職としてのキャリア」の一助とすることができる。			
授業のキーワード	キャリア、キャリアプラン、自己分析、自己理解			
授業の到達目標	Ⅰ 学生交流や教員との面談から自己分析から自己の特徴を理解することができる。 Ⅱ 客観的ものの見方やコミュニケーション力を高めることができる。 Ⅲ 看護職のキャリア形成について学ぶことができる。 Ⅳ 生涯学習の必要性を理解する。			
授 業 計 画	回	内 容		
	1	応用ゼミガイダンス		
	2	講義・演習；自己分析①：自己の価値観について		
	3	講義・演習；自己分析②：自己の特徴を理解する		
	4	講義・演習；自己分析③：自己の特徴を理解する （マイナビ）		
	5	国家試験の学修①		
	6	演習orゼミ①：これまでの自分を振り返り，看護職となるうえでの自己の課題，看護職を希望する動機やキャリア明確にし，言語化および文章化をする。		
	7	演習orゼミ②：これまでの自分を振り返り，看護職となるうえでの自己の課題，看護職を希望する動機やキャリア明確にし，言語化および文章化をする。		
	8	演習orゼミ③：これまでの自分を振り返り，看護職となるうえでの自己の課題，看護職を希望する動機やキャリア明確にし，言語化および文章化をする。		
	9	ワークキャリア：職種・雇用形態の基礎，ワークライフバランス		
	10	キャリアプラン①：看護専門職と生涯学習 看護の専門性を発展させていく重要性和自己研鑽の意義		
	11	キャリアプラン②：特定分野における活動（CN，CNS，国際看護など）を理解する		
	12	国家試験の学修②		
	13	国家試験の学修③		
	14	国家試験の学修④		
	15	まとめ 11/4		
教 科 書	適宜提示する。			
参考文献 その他資料	適宜提示する。			
成績評価方法	成績評価は、授業準備、参加態度（50％）、レポート（50％）により評価する。総合して60％以上で単位を与える。			
履 修 条 件	2 年生までの単位数を取得していること。ただし、履修年度の途中で卒業が見込めなくなった場合は履修中止とする。			
備 考	特になし			

授 業 科 目 名	臨床診断・臨床薬理学	科目の位置付け	Ⅱ－2－3－1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	3年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	笹野 公伸	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	1年次で学ぶ病態生理学と薬理学、2年次で学ぶ疾病治療論、それらに含まれている知識・内容を、観点を変えて学ぶことにより、統合し実践的に深めるのが、本科目の目的である。そのために、臨床検査・画像診断・臨床薬理を領域横断的に取り上げる。また、主要な内科疾患の事例を用いて、その診断・治療を、問題解答形式で学ぶ。		
授業のキーワード	検査、診断、治療薬、事例検討		
授業の到達目標	Ⅰ 検査、画像の典型的所見を読みとれる。 Ⅱ 抗菌薬・抗悪性腫瘍薬・ステロイド剤の適応と副作用を説明できる。 Ⅲ 主要な内科疾患について、その診断・治療の概略を説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	理学所見（視診、打診、聴診、触診）	
	2	臨床検査（尿、血液）	
	3	臨床検査（細胞・組織診、CT・MRI・PET）	
	4	臨床検査（エコー、心電図）	
	5	画像診断（頭頸部、胸部）	
	6	画像診断（腹部、運動器）	
	7	臨床薬理（感染症、悪性腫瘍）	
	8	臨床薬理（膠原病、自己免疫疾患、疼痛）	
	9	事例検討（心筋梗塞、心不全、大動脈解離）	
	10	事例検討（気管支喘息、COPD、呼吸不全）	
	11	事例検討（消化性潰瘍、胃がん・大腸がん、炎症性腸疾患）	
	12	事例検討（肝炎・肝硬変・肝不全、膵炎）	
	13	事例検討（糸球体腎炎、糖尿病腎症、腎不全）	
	14	事例検討（脳卒中、頭部外傷）	
	15	事例検討（てんかん、パーキンソン）	
教 科 書	なし		
参考文献 その他資料	理解を助ける図、演習問題をプリントして配布する。		
成績評価方法	定期試験による。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	予め当該の問題集を渡すので、授業前に目を通しておくこと（30分）。授業後は、ノートに記載した解説内容とともに復習すること（30分）。問題の解答は明示するので参照すること。		

授 業 科 目 名	看護管理学		科目の位置付け	Ⅲ－8－3－2,3,4
単 位 数	1 単位		時 間 数	15時間
履 修 年 次	3 年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	熊田 真紀子、佐藤 浩一郎（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	看護は、1 人がケアを提供するという限定された実践ではなく、看護職相互はもとより多職種の医療チームとの協働、地域の医療施設との連携など、組織を越えた実践により患者の回復や住民の健康を守ることが期待されている。看護管理学では、管理者が人や組織をマネジメントするだけでなく、看護職 1 人ひとりが時間管理やストレスに対する自己コントロールなど、マネジメントに関するスキルを学び、身につけ、実践していくことが重要であることを学ぶ。			
授業のキーワード	看護管理、マネジメント、看護制度、看護組織、看護提供方式、安全管理、看護サービスの質的・経済的評価、人的資源管理、物的資源管理、リーダーシップ、看護管理と倫理			
授業の到達目標	Ⅰ 看護管理の概念や看護を組織的に提供するしくみを理解し説明できる。 Ⅱ 看護管理に必要な知識やマネジメント能力を説明することができる。 Ⅲ 看護管理の学習を通して、自己の管理課題を見出し必要なマネジメントについての見解を述べるができる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	科目ガイダンス「看護管理」とは 看護管理を学ぶとは 看護サービスの管理 マネジメントの定義		熊田
	2	看護管理のスキル アウトカムマネジメント 安全管理 働きやすい職場作り		佐藤
	3	看護管理のスキル 情報管理 管理行動 自己管理		熊田
	4	看護管理のスキル 資源の獲得と配分 人的資源管理		佐藤
	5	看護組織と管理 組織論 看護提供方式 リーダーシップとメンバーシップ 看護管理プロセス		熊田
	6	看護サービス管理の周辺 法制度と看護管理 看護管理と倫理		熊田
	7	看護サービス管理の周辺 医療政策と看護管理（医療制度） 医療連携と他職種との連携		佐藤
	8	看護管理の展望 これからの時代の看護管理 全体のまとめ		熊田
教 科 書	講義ごとにハンドアウトを配布する。			
参考文献 その他資料	看護学テキストNiCE 看護管理学 改訂第3版 南江堂 ナースングラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 第5版 メディカ出版 その他、講義で提示・紹介する。			
成績評価方法	授業・課題への取り組み、筆記試験（100%）			
履 修 条 件	2 年次後期までの単位を取得していること。			
備 考	組織の一員として役割期待に応える存在となることが大切です。 自分自身の存在が組織にどのような役割を期待されているのかを自覚し、組織や地域に貢献できる基礎知識を身につけ、メンバーシップやリーダーシップを理解し行動できる看護職者になるための知識を修得することを目指します。 授業テーマについて、各事項の意味を調べ、わからないことはその時間内に解決できるようにする。そのための予習時間として120分程度が必要である。 また、受講後は学習したことの振り返りをして理解を深める必要がある。そのため復習時間として120分程度が必要である。			

授 業 科 目 名	災害看護	科目の位置付け	Ⅲ－8－3－1,2,3,4
単 位 数	1単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	3年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	安倍 藤子（実務経験あり）	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	災害が人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学ぶ		
授業のキーワード	災害サイクル、トリアージ、こころのケア、地域防災、備え		
授業の到達目標	Ⅰ 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する Ⅱ 災害発生時の社会の対応や仕組み、個人の備えや地域防災を理解する Ⅲ 災害が人々に及ぼす影響を理解する Ⅳ 災害時に看護の果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	災害看護の基礎知識と災害が人々の健康や生活に及ぼす影響 1) グローバル化による健康への影響や近年の世界の災害の特徴 2) わが国や世界の災害への取り組みの概要 3) 災害の種類と健康被害	安倍
	2	災害各期における看護活動、看護師に求められる知識と技術① 災害直後の健康・生活課題と看護支援の特徴	外部講師
	3	災害各期における看護活動、看護師に求められる知識と技術② 災害中・長期の健康・生活課題と看護支援の特徴	外部講師
	4 5	災害看護演習（避難所運営） 看護学生として被災した人々が生活しやすい環境を整える （本学が一般避難所、福祉避難所となった場合を想定しよう）	安倍 院内講師
	6 7	災害医療や看護、防災に尽力している施設の見学研修 ※事前学習、研修要項は後日説明する	安倍 外部講師
	8	まとめ （こころのケア、個人の備え＝スフィアスタンダードなど）	安倍
教 科 書	系統看護学講座 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院		
参考文献 其他資料	授業時提示する		
成績評価方法	筆記試験80%、課題レポート20% やむを得ない理由による欠席の場合は、前もって連絡し、学生自らの申し出により別途設定する補講等を受講すること。		
履 修 条 件	なし		
備 考	【受講前】既習の関係法規、看護管理、急性期疾患の病態生理の復習をしておく。 2時間程度の予習時間を設け、授業時間毎のテーマに関連するテキストの項目を確認し、受講前に疑問点を整理しておくこと。 【受講後】2時間程度の復習の時間を設け、講義内容の要約を記録し、授業で提示する参考文献のなかで関心のあるものを読み理解を深めた上で取り組むこと。 ※課題学習は、提出を受け、担当教員が内容を確認後に返却する。理解促進のために、必要時はコメントの記入、次回授業で疑問点の解消の機会を持つ。		

授 業 科 目 名	地域・在宅看護実習Ⅱ	科目の位置付け	Ⅲ－9－3－1,2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	80時間
履 修 年 次	3年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	実習		
担 当 教 員	平尾 由美子、鈴木 博美、木島 祐子（全員実務経験あり）		
臨 地 実 習 概	（居宅における看護）訪問看護ステーションにおける看護活動を通して、在宅看護のプロセスを学ぶ。生活の場における看護師に求められる姿勢や態度、在宅看護の展開に必要な基礎的能力を修得する。 （地域における看護）地域包括支援センターと共生型福祉施設での実習を通して在宅ケアシステムと保健医療福祉職チームの連携方法と看護職の役割を理解する。		
臨 地 実 習 的 目	地域で生活する療養者とその家族を統合的に理解するとともに、様々な健康レベルの人々が暮らす地域における看護活動を見学し、在宅療養者（以下、対象者）と家族が望むその人らしい生活を送るための看護および地域支援のあり方を学ぶ。		
臨 地 実 習 の キーワード	訪問看護ステーション、地域包括支援センター、地域共生社会、家族ケア、多職種連携		
臨 地 実 習 の 到達目標	I 対象者と家族の療養生活上のニーズを理解し、援助の実践を通して、在宅看護のプロセスを記述できる。 II 在宅ケアシステムと在宅ケアにかかわる保健医療福祉職チームの連携方法、および看護職の役割を説明できる。 III 地域共生社会の実現にむけた地域活動について説明できる。 IV 在宅ケアに関わる看護者に要求される姿勢や態度を身につけることができる。		
実 習 期 間	2025年5月～10月の領域別実習期間のうちの10日間		
実 習 施 設	・ 訪問看護ステーション（せんだんの丘、はづき、こころサポート太白、ケアステーションつくし、ケアステーションながまち、ケアステーション郡山、セントケア仙台太白、あおい、八木山、うちケア、ベルカナ他） ・ 仙台市地域包括支援センター（愛宕橋、五橋、河原町、国見、小松島、七郷、高砂、台原、榴岡、富沢、長町、福田町、八木山、大和蒲町、鶴ヶ谷、燕沢、寺岡、高森、多賀城東部） ・ 赤門まちかど保健室（国分町校舎内、その他） ・ 地域共生型サービス（太白だんだん、アンダンチ）		
臨 地 実 習 方 法	学生2～3名を1グループとし、2週間の実習を行う。 1. 地域包括支援センターにおいて、家庭訪問、介護予防教室、地域ケア会議への参加・見学をする。訪問看護ステーションにおいて、看護師と共にさまざまな対象者宅を訪問し、観察、状況把握、看護ケアの見学を行い、看護師の役割と多職種連携の実際を見学する。 2. 地域共生型サービスにおいて、地域活動の実際を見学し、職員や地域の人々とのコミュニケーションを深める。 3. 赤門まちかど保健室では、相談活動や地区踏査を通して、地域の人々の健康ニーズや課題を把握し、対応方法を検討するとともに地域の課題を把握する。 4. 療養者およびその家族とのコミュニケーションを通して、在宅療養者と家族にとっての生活の場における療養の意義と、看護師の役割を考える。		

臨 地 実 習 計 画	回	内 容
	1	オリエンテーション、事前課題グループワークおよび追加学習
	2	地域包括支援センター実習
	3	「赤門まちかど保健室」実習 周辺地域の地区踏査
	4	共生型福祉施設実習
	5	中間まとめ、全体カンファレンス
	6	訪問看護実習準備・演習
	7	訪問看護ステーション実習
	8	訪問看護ステーション実習
	9	訪問看護ステーション実習
	10	実習のまとめ、全体カンファレンス
教 科 書	ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版	
参考文献 その他資料	授業で配布した資料	
成績評価方法	成績評価を受けるには5分の4の出席が必要であり、全日程の出席を原則とする。 評価の対象 ①事前学習 ②看護実践の内容 ③実習記録 ④まとめレポート ⑤実習全般の態度・マナー	
履 修 条 件	「地域・在宅看護概論」「地域・在宅看護援助論Ⅰ」「地域・在宅看護援助論Ⅱ」「地域・在宅看護実習Ⅰ」を履修し、所定の単位を取得していること。	
備 考	・自律して実習に臨めるよう、事前学習を十分実施してくること。 ・生活の場（居宅）に入る実習であるため、態度・マナーには特に留意すること。	

授 業 科 目 名	成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）	科目の位置付け	Ⅲ－9－3－1,2,3,4,5
単 位 数	3単位	時 間 数	120時間
履 修 年 次	3年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	実習		
担 当 教 員	森岡 薫、安倍 藤子、岩渕 起江、佐藤 文枝、島倉 蓉子、越川 暢恵 （全員実務経験あり）		
臨 地 実 習 概 要	慢性の疾患を有する成人期・高齢期にある人とその家族を対象とし、必要とされるライフスタイルの再構築やセルフケア行動の獲得に向けた支援を学習し実施する。対象とその家族の全人的苦痛を理解し、緩和に向けた援助を学習し実施する。また、地域で社会生活を送る人を支えるためのチームアプローチと看護の役割について学ぶ。		
臨 地 実 習 目 的	① 成人期・高齢期にある慢性疾患を有する対象（認知症含む）とその家族が抱える問題を把握し、セルフケア能力の向上に向け必要な看護を学ぶ。 ② 苦痛の緩和を図り、QOLが向上するための看護を学ぶ。 ③ 地域で社会生活を送る人を支えるためのチームアプローチを学ぶ。		
臨 地 実 習 の キ ー ワ ー ド	生活習慣のアセスメント、セルフマネジメント、緩和ケア、QOLの向上、退院支援（調整）、生活史、加齢による生理的变化		
臨 地 実 習 の 到 達 目 標	Ⅰ 生涯コントロールを必要とする慢性疾患患者の健康観および生活習慣をアセスメントできる。 Ⅱ 対象とその家族の苦痛の緩和と、セルフケア能力の維持・向上を図る実施可能な援助ができる。 Ⅲ 実施した看護ケアについて、対象とその家族の QOL が維持・向上できたかを評価できる。 Ⅳ 病棟での看護実践場面や地域連携室実習を通して保健・医療・福祉チームにおけるチームアプローチについて説明できる。 Ⅴ 慢性疾患患者の看護援助を通して学んだ“看護とは”を文章化できる。 Ⅵ 医療従事者を志す学生としての役割・責務を果たすことができる。		
実 習 期 間	3年次5月～10月のうちの3週間		
実 習 施 設	大崎市民病院、総合南東北病院、長町病院、みやぎ県南中核病院のうち指定された病院		
臨 地 実 習 方 法	学生1名で慢性疾患（慢性の機能障害）のある患者1～2名を受け持ち、看護過程を展開し実施・評価を行う。 看護過程は、「診断・治療導入期」「安定・維持期」「急性増悪期・再燃期」「進行期」「終末期」の時期に応じて、セルフケア、緩和ケアに焦点をあてる。慢性疾患とともに生きる患者の軌跡（過去～現在～未来）を見据え、患者・家族との関わりから、より良い方向への変化を支える看護を見出し、実践し、評価する。 受け持ち患者については以下のとおりとする。 ・成人期～高齢期の対象 ・慢性疾患により、日常生活に何らかの困難を生じている対象 ・何らかのコミュニケーションが可能な対象（認知症含む） 実習施設および実習病棟はオリエンテーション時に説明する 【地域医療連携実習について】 実習期間中、1日は地域連携室での実習を行う。 例）実習10日目 8：30～16：30 ※病院によって日程および開始時間が異なる		

臨 地 実 習 計 画	回	内 容
	1	学内実習：実習オリエンテーション ＜実習事前学習の確認・自己の課題に基づいた学習＞
	2～4	臨地実習
	5	臨地実習 中間カンファレンス ＜看護上の課題の明確化＞
	6	学内実習：必要な看護技術の確認、看護計画の立案
	7～9	臨地実習
	10	臨地（地域連携室）実習
	11	学内実習：＜看護過程・看護実践の振り返り＞
	12	臨地実習：
	13	臨地実習最終カンファレンス
	14	学内実習：事例のまとめ ケース発表会
	15	学内実習：＜成人・高齢者看護学実習Ⅱの統合＞まとめ
教 科 書	既習の教科書やテキストおよび授業（「成人看護学概論」および「成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者看護学概論」「高齢者看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」）で配布した資料。その他、オリエンテーション等で紹介する。	
参考文献 その他資料	参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。	
成績評価方法	成績評価を受ける資格は原則として全日程の出席である。やむを得ず欠席した場合は、担当教員および科目責任教員の指示を受ける。 1. 評価の対象： ①事前学習 ②看護実践の内容 ③実習記録 ④ケースレポート 2. 評価の方法：事前学習、実習における看護実践（態度・意欲を含む）、実習記録、カンファレンスやケース発表会への参加、ケースレポート、実習目的・目標の到達度を、ルーブリックにより評価し（100%）、60%以上を合格とする。 3. 成績判定は、学生便覧「12. 臨地実習の評価」に準ずる。	
履 修 条 件	本実習に臨むためには、「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「成人看護学概論」および「成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者看護学概論」「高齢者看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」を履修し、所定の単位を取得していること。	
備 考	実習オリエンテーションで、本実習の目的・方法・成績評価法、実習施設、シラバスの変更点など重要事項を説明する。実習オリエンテーションおよび実習前演習は、臨地実習の一環と位置付けられており、出席を前提とする。欠席した場合は、実習に出ることができない場合がある。 準備学習として、「成人看護学概論」および「成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者看護学概論」「高齢者看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」で学習した知識を活用し、実習病棟で経験する主な疾患と病態生理、受け持ち患者情報の理解に努める（事前学習120分程度）。日々の実習終了後には実習記録を整理する。その上で疑問点を明確にし、翌日の実習で疑問を解消する姿勢で臨むこと（復習60分程度）。 事前学習の内容は別途提示する。	

授 業 科 目 名	精神看護学実習	科目の位置付け	Ⅲ－9－3－1,2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	80時間
履 修 年 次	3年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	実習		
担 当 教 員	佐藤 浩一郎、金野 明子、寺田 みゆり（全員実務経験あり）		
臨 地 実 習 概	精神の障がいをもつ人とのかかわりを通して、人がこころを病むことを理解し、精神看護の役割や機能と援助の実際を学ぶ。看護場面の再構成を行い、患者－学生関係の自己一致を見出し、対象者の理解を深めるとともに自己の洞察も深めた対人関係技術を学ぶ。		
臨 地 実 習 目 的	こころを病むことへの理解、精神看護と治療的なかかわり、看護師の態度と自己洞察、治療環境と安全管理、地域における精神看護		
臨 地 実 習 の 到 達 目 標	I その人を生物学的、心理学的、社会・文化的側面から、看護ニーズを統合的に説明することができ、こころを病むことへの理解を深めることができる II その人の健康回復に向けて、日常生活の自立（自律）のための実施可能な個別的な看護を実践することができる III 精神障がいをもつ人とのかかわりのなかで、対人関係の大切さを知り、ひとりの人間として敬意と態度を育んだコミュニケーションを図ることができる IV 治療環境を理解し、その中で安心・安全な看護援助を理解することができる V 精神科リハビリテーションのさまざまな技術を理解することができる		
実 習 期 間	2025年5月～2025年10月		
実 習 施 設	東北医科薬科大学病院、石越病院、こだまホスピタル、緑ヶ丘病院、西仙台病院		
臨 地 実 習 方 法	1. 施設・病棟オリエンテーション 2. 情報収集とアセスメント、第1段階。精神科病院に入院している患者1名を受け持つ。出会いの場面、対象者に挨拶する 3. 情報収集とアセスメント、第2段階。対象者とかかわりながら関係を深めてゆく 4. 情報収集とアセスメント、第3段階。全体像を統合し看護計画を立案する 5. 各施設での作業療法・SST・地域精神保健福祉活動等について学ぶ 6. 看護援助の実施と評価、第1段階。対象者と一緒に課題に取り組む 7. 看護援助の実施と評価、第2段階。看護場面のプロセスレコード（患者－学生との関係のふり回り） 8. 看護援助の実施と評価、第3段階。対象者とかかわりの関係終結にむけて取り組む 9. 学内実習では病棟での実習をまとめる 10. 各施設によりデイケアでの実習。利用者と共にプログラムに参加する		
臨 地 実 習 画 計	回	内 容	
	1	学内実習 オリエンテーション	
	2	臨地実習	
	3	臨地実習	
	4	臨地実習	
	5	臨地実習 中間面接	
	6	臨地実習	
	7	臨地実習	
	8	臨地実習	
	9	臨地実習	
	10	学内実習 まとめ 最終面接	

教科書	看護学テキストNiCE 精神看護学Ⅰ 改訂第3版 南江堂 看護学テキストNiCE 精神看護学Ⅱ 改訂第3版 南江堂
参考文献 その他資料	授業で配布した資料や事前学習等のレポートを参照してください
成績評価方法	1. 評価対象 実習中の行動、看護実践、事前・事後レポート、実習中の記録物など、本実習のすべてのプロセスを対象とする 2. 評価方法 実習評価表に基づき評価する。到達度60%以上を合格とする
履修条件	「精神看護学概論」、「精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。
備考	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱの授業の復習を十分に行ってください。 こころの健康は目に見えにくいものですが、自分と照らしながら精神看護学に興味を持ち、精神障がい者とその家族の話題、地域での生活にも関心を持ちましょう。

授 業 科 目 名	統合実習	科目の位置付け	Ⅲ－9－3－1,2,3,4,5
単 位 数	3単位	時 間 数	120時間
履 修 年 次	3年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	実習		
担 当 教 員	佐藤 喜根子、平尾 由美子、井上 由紀子、小野 八千代、森岡 薫、佐藤 浩一郎、菊地 真、熊田 真紀子、安倍 藤子、金野 明子、佐藤 文枝、青野 都、坂本 智恵子、鈴木 博美、木島 祐子、佐藤 大介、島倉 蓉子、寺田 みゆり、越川 暢恵（全員実務経験あり）		
臨 地 実 習 概	既習の学習を統合して、臨床実務に即した看護管理や医療チームの連携、医療安全などを踏まえた看護実践能力を養い、看護師としての自覚と責任を培う。看護管理実習としては、リーダー業務や看護師長業務に同行する。また複数患者への看護実践時の優先度を考えながら計画的に看護援助を行う。さらに、看護師が活躍する地域の施設での健康管理や就労支援の実情を学ぶ。		
臨 地 実 習 的 目	既習の知識・技術を整理統合させ、科学的思考と実践能力を養う。また、地域での福祉施設や病院での看護管理や 保健医療福祉チームとの連携、健康寿命の延伸を支える看護実践を通して、チーム医療における看護師の役割や専門性についての理解を深める。		
臨 地 実 習 の キーワード	看護管理、医療安全、リーダーシップ、多職種連携、看護観、地域包括ケアシステム		
臨 地 実 習 の 到達目標	I 学生個々の関心分野に対する看護実践力を高める II 看護職の組織体制やマネジメント、医療安全など管理の基本を体験する III 医療保健福祉チームにおける多職種との連携や協働の実際を体験する IV 複数の患者担当や夜間帯における看護活動の特殊性と情報の伝達の実際を体験する V 社会に求められる看護師像を説明できる		
実 習 期 間	2025年7月22日（火）～ 11月21日（金）		
実 習 施 設	石巻市立病院、公立藤田総合病院、総合南東北病院、東北医科薬科大学病院、みやぎ県南中核病院、エバークリーン病院、ゆう貝ヶ森、らく四番館Ponte Home		
臨 地 実 習 方 法	1. 現場看護師の実践を学ぶ 看護部長、病棟における看護師長・リーダー看護師業務の見学。複数の患者の一日のケアマネジメントについて理解する。日勤帯から夜勤における引継ぎに参加し、情報伝達の内容・方法を理解する。患者を取り巻く多職種の連携の方法・内容 について見学する。 【実習配置と指導体制】 ①1グループ4～5名で編成する。 ②実習施設及び実習病棟はオリエンテーション時に説明する。 2. 看護職の多様性を学ぶ 病院以外で看護職が活動している、福祉施設等を見学し、実践に参加する。 3. 学内・学外での看護実践活動への参加により、看護の専門性について学ぶ 自主的に看護実務活動（保健医療福祉系学会、セミナー、ボランティア等）へ参加する。 【看護実践活動への参加方法】 ①看護セミナー、研修、学会やボランティア等への参加 ②ポイント制で評価 ※詳細は実習要項に示し、オリエンテーションで説明する		

	回	内 容
臨 地 実 習 計 画	1	実習オリエンテーション、実習準備
	2	臨地実習 福祉施設等の見学・実践参加
	3	臨地実習 福祉施設等の見学・実践参加
	4	臨地実習 福祉施設等の見学・実践参加
	5	臨地実習 看護実践活動への参加
	6	臨地実習 看護実践活動への参加
	7	臨地実習 看護実践活動への参加
	8	臨地実習 病院：看護管理の実際（看護部長・看護師長業務）
	9	臨地実習 病院：看護管理の実際（病棟リーダー業務シャドーイング）
	10	臨地実習 病院：チームメンバーとの看護ケア（多職種連携部署の見学）
	11	臨地実習 病院：チームメンバーとの看護ケア
	12	臨地実習 病院：チームメンバーとの看護ケア
	13	臨地実習 病院：チームメンバーとの看護ケア
	14	臨地実習 報告会：実習からの学びについて
	15	実習全体のまとめ 最終レポート作成
教 科 書	既習の教科書やテキストおよび授業で配布した資料。 その他、オリエンテーション等で紹介する。	
参考文献 その他資料	参考書は、適宜紹介する。	
成績評価方法	成績評価を受ける資格は原則として全日程の出席である。やむを得ず欠席した場合は、担当教員及び科目責任教員の指示を受ける。 1. 評価の対象 ①実習記録(事前学習・看護実践・まとめ)・カンファランス ②課題レポート（ポイント・最終課題） 2. 評価の方法 事前課題、実習における看護実践（事前学習、態度とマナー、意欲を含む）、実習記録、実習まとめの参加態度について、実習目的と目標の到達度を評価し、60%以上で単位を与える。	
履 修 条 件	「看護管理学」と「領域実習」を履修しており、単位の修得見込みがあること。	
備 考	実習内容ごとに、また実習施設ごとに実習オリエンテーションを実施する。 実習には事前学習として病院・施設の概要、看護部の理念・目的などを調べ、言葉や単語の意味を理解しておく必要がある。そのため事前学習として60分程度の予習が必要であり、実習にあたっては記録の整理や事後学習として日々60分程度の復習が必要である。 なお、ポイント獲得状況については、定期的に確認を行います。	

専任教員・オフィスアワー

専門領域	教員氏名	研究室	連絡先	前 期	後 期
学長 医学一般	笹 野 公 伸	学長室	hironobu-sasano	事務部窓口まで	
学科長 母性看護学	佐藤 喜根子	500	kineko-sato	在室時はいつでも対応	
基礎看護学	菊 地 真	514	makoto-kikuchi		
	小野 八千代	503	yachiyo-ono		
	熊田 真紀子	504	makiko-kumata		
	坂本 智恵子	541	chieko-sakamoto		
	佐藤 大介	531	daisuke-sato		
地域・在宅看護論	平尾 由美子	501	yumiko-hirao	金 5 限目	
	鈴 木 博 美	541	hiromi-suzuki	在室時はいつでも対応	
	木 島 祐 子	531	yuko-kishima		
成人看護学	安 倍 藤 子	507	fujiko-abe		
	岩 渕 起 江	508	yukie-iwabuchi		
	越 川 暢 恵	523	nobue-koshikawa	在室時はいつでも対応	
高齢者看護学	森 岡 薫	505	kaoru-morioka		
	佐 藤 文 枝	531	fumie-sato		
	島 倉 蓉 子	531	yoko-shimakura		
小児看護学	井上 由紀子	502	yukiko-inoue	木 5 限目	
母性看護学	青 野 都	541	miyako-aono	在室時はいつでも対応	
精神看護学	佐藤 浩一郎	506	koichiro-sato		
	金 野 明 子	510	akiko-konno		
	寺田 みゆり	523	miyuri-terada		

* 急な業務・学科等で不在のこともありますので、事前にメール等にて連絡してください。

* メール送信の場合、連絡先の後に、@sendai-akamon.ac.jp をつけてください。

* オフィスアワーの活用方法に関しては、学生便覧 P.34 を確認してください。

学籍番号

氏 名

シラバス 2025 3 年生

2025年4月1日 発行

編集・発行 学校法人 赤門宏志学院
 仙台赤門短期大学 看護学科
所在地 〒980-0845
 仙台市青葉区荒巻字青葉6番 41
 TEL 022-395-7750(代表)



学校法人 赤門宏志学院
仙台赤門短期大学 看護学科